

【実践報告】

教育実習V・VI（中・高）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 黒木晶子

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹原豊造

1 はじめに

教育実習V・VIは中学校・高等学校教員としての適性を確認し、その資質を伸長するために行われるものである。大学で学んだ理論と教育現場での実践がどのように関連するかを実習で学ぶ。実習校で指導担当教諭の指導のもと、授業参観、教材研究、授業実施、学級指導等を行う。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月	・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。 ・実習校への事前訪問により、指導担当教諭等の指導担当者に、担当となる学級の生徒の実態や、指導計画、担当授業の内容を確認する。 ・教材研究、模擬授業を行う。担当教員による指導、実習生相互の検討作業を通して、よりよい教材・授業になるよう工夫を重ねる。
本実習 15日間 (学外)	5月～6月	・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導担当教諭等からのオリエンテーション、②授業参観、③教材研究、④授業担当、⑤生徒指導、⑥その他の学校・学級運営に関わる諸業務が挙げられる。 ・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、中学校・高等学校教員の役割・業務等について理解を深める。
事後学修 (学内)	7月 報告会は 7/27に実施	・各自の実習を振り返り、報告書をまとめる。 ・各自の実習内容について報告会で報告する。報告会では、教科指導、生徒指導、校務等を通して学んだことを発表する。

3 活動の概要

○教育実習を通して学んだこと（学生の報告会資料より抜粋）

・実習校では生徒指導部、教務部、生徒会部の3つの部に分かれて先生方は活動されていました。とくに教務部は仕事が多く、学校運営に関わるほとんどのことを司っていました。実習校は行事が多く、生徒数も多い学校なので、さらに校務が多いようです。普段も先生方は部活動が終わるまでは生徒と関わり、そこから夜遅くまで教材研究や保護者対応をされていました。それに加え、土日は試合や部活動の指導をしておられました。授業や学級経営だけが先生方の仕事ではないことは分かっていましたが、この実習で校務の多さに驚くことが多々ありました。

- ・教育実習全体を通して、中学校教員の多忙さを知り、その中でも効率よく仕事をされている先生方を観察させていただくことができた。中学校は教科担当制ではあるが、小学校実習で観察させていただいたときと同じくらい、他の教員との連携を常にとっておられ、生徒が学校生活をスムーズに送れるように配慮されていた。毎朝の職員朝礼をはじめ、放課後や昼休みに職員室で生徒のことについて情報を交換されており、本当に生徒のことを考えて対応しておられるのだと感じることができた。
- ・私は昨年小学校で教育実習をしていたこともあり、今回の実習と比較することが多々あった。小学校と比較すると、生徒の心境としては、悩みの中心が勉強であることが特に違うと感じた。そのため、授業のわかりやすさは生徒にとって重要なことであることが感じられた。これは教師にとって専門性が問われているということでもあり、教科指導の難しさを感じるとともに、私自身が専門的な知識を身につけていることが絶対条件であると学んだ。また、これに関連して、授業が楽しいかどうか、先生のことを好きかどうか、教科の好き嫌い、得意不得意に関係してくることもわかった。そのためにやはり専門的な知識は必要であり、さらに楽しい授業を展開する発想力も必要とされると感じた。生徒指導、進路指導が重要になってくることも中学校ならではのことだと思う。悩みの内容も小学生とはまた違うため、さまざまな角度からの生徒理解が重要だと感じた。
- ・私が教育実習から学んだことは、学び続けることの大切さです。生徒にとってより良い授業を作っていくことが何より大切なことであるし、生徒にしっかり学んでもらうために、その手本となるように教員自身がその姿を見せることが大切であると感じました。そのために、たくさんの経験をするだけでなく、他の人の授業を観察させてもらって、そこからより良い授業を行っていただくためのヒントを見つけていくことが大切であるということ学びました。

4 成果と課題

昨年度と同様、実習の感想として、教師の仕事の内容が多岐にわたり、その多忙さに驚いたことを挙げる学生が多く見られた。また、教える対象である教科についての学修を深めていくことの重要性を改めて認識した学生もいた。学内での事前学修ではなかなか実感することが難しい側面を現場での実習において実習生自ら体感し、その中で今後の学修課題を見出していることがうかがえる。さらに、3年生のときの小学校での教育実習に加えて今回の教育実習（中学校実習）を行っている学生もおり、複数の校種での実習を通して多角的な学びを得ているようである。

今年度も、実習報告会への4年生以外の学生の参加については、関係授業やユニバーサルパスポートを通して早めに会の開催に関する通知を行ったことにより、特に3年生の積極的な参加が見られた。実習報告後には、参加学生と4年生とのあいだで活発な質疑応答が行われた。

改めて学生相互の学び合いの場としての実習報告会の意義を認識するとともに、今後1,2年生の会への参加を促していくことにより、早い段階からの実習（本実習）を見据えた学修につなげていきたいと考える。